**説教20240317エゼキエル37：11-14ヨハネ11：17-44「ラザロ、出て来なさい」**

**キリスト信仰と言うのは、言うまでもなく、お地蔵さんのような物体を信仰するのではなく、今、ここに生きているイエスキリストを信仰するという事です。イエス様は私たちの目には見えませんが、信じる者たちと共に喜んで食事をし、信じる者たちと共に悲しんで涙を流し、苦しみに耐えて下さるお方です。**

**イエス様は、信じる人たちと共に喜びあい、そして悲しみを共にするために、この地上へと降りてこられたのでした。**

**ヨハネ福音書 11章 42節より**

**しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」**

**イエス様が私たち人間と親しく交わって下さるには、どうしても信じるという事が必要です。イエス様を信じない事には、イエス様との交わりは有りません。このことは単純な事でありながら一番大切なことです。ですからイエス様も、この地上での一番の目的を、人々に信じさせること、に置かれたのでした。イエス様は、人々に信じさせるために、折に触れて人々と食卓を囲み歓談をし、病気で悲しむ人に触れてその病気を癒して下さったのです。そして、最後には、信じる者たちは、今日のラザロの様に、「太郎、出て来なさい」「花子、出て来なさい」と言うイエス様の言葉を、自分の心の奥底で聞いて、復活の死なない体へと解き放たれるのです。**

**イエス様がこの地上へと来られたのは、この様に私たち人間一人ひとりを信じる者とし、その一人ひとりの中に住まわれて、御言葉を聞いて生きる者とし、最後には、復活の、死なない体へと解き放たれる為なのです。**

**今の時代、この地上に生きる人々は、様々な目的のために生きているでしょう。自分たちのかけがえのない人生を輝かせて、有意義な生涯を送ろう、ですとか、愛する人を幸せにするために生きようと言った具体的な目的をもって人生を送った方が何の目的もないよりは良いでしょう。**

**しかし、最もよい目的と言うのは、イエス様を信じて、イエス様の声に聴き従うことだと、イエス様は言われています。その最もよい目的のために生涯を送るとき、それ以外の目的、、、人生を輝かせて、有意義な生涯を送ろうですとか、愛する人を幸せにすると言った目的は、自然に成し遂げられると、イエス様は言われます。**

**今日のヨハネ福音書の記事を書いたのは、使徒ヨハネだと言われています。この使徒ヨハネも、イエス様の目的にハマった人物の最たるものです。彼は、この地上で、イエス様と共に喜び合い又悲しみ合う生活を共にすることで、イエス様と愛し合う仲にされたのでした。そうして、イエス様を信じる者とされたヨハネは、十字架のもと迄、イエス様について行くことが出来た数少ない人のうちの一人でした。彼は、イエス様と愛し合っていたので、十字架の上で苦しむイエス様のそばにいて、イエスをいたわってあげたいという思いが、迫害の恐怖に勝って、彼を十字架のもとへと導いたのでした。**

**それではイエス様と愛し合うというのは具体的にはどういうことなのでしょうか。それは具体的に聖書に書かれています。今日のヨハネ福音書の箇所を見てみましょう。**

**使徒ヨハネは、イエス様のことを深く愛していました。彼は、イエス様の心のありさまをよくみています。**

**11章 33節**

**イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、、とヨハネは記しています。**

**ここで泣いていたのはマリアたちですが、マリアはこの時、イエス様が心に憤りを覚えたことに気が付かなかったかもしれません。自分の悲しみの感情に夢中になって。**

**しかし、ヨハネは、イエス様を深く愛していたので、イエス様のこの時の心にも気が付いて、イエス様に寄り添うことが出来たのでした。**

**キリスト信仰と言うのは、生きているイエス様を信じることですから、当然、喜怒哀楽すなわち喜び怒り悲しみ、楽しむ人間イエス様と付き合っていくという事でもあります。イエス様と言うお方は神様でありながら、この地上に来て下さった人間でもある、実に人間的な感情を持つお方であります。**

**何でこの時イエス様は心に憤りを覚えたのか。このことは今日のヨハネ福音書を何回も読んでみれば、何となくわかって来るでしょう。**

**マリアはイエス様に言いました。32節**

**「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかったでしょうに」**

**このマリアのセリフはそっくりそのまま、マルタのセリフでもあります。21節「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかったでしょうに」このようにマルタもイエス様に言いました。**

**しかし、マルタのほうは「しかし、」と続けます。22節**

**しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」**

**ただ泣いているだけのマリアと、このマルタの応答には大きな違いがあります。が、それ以前に、マルタやマリヤ、そしておそらくその他大勢の人たちから、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかったでしょうに」と言われて泣かれれば、さすがのイエス様も、心に憤りを覚えて、興奮してしまったのではないでしょうか。**

**私たちの信仰は、実は、喜怒哀楽、すなわち喜び、怒り、哀しみ、楽しみと言った感情の在り方に根ざしています。ですから、私たちは具体的に、こういった感情の渦に巻き込まれながら、信仰がイエス様から与えられていきます。**

**ですから、必ずしも、怒りという感情も全面的に否定されることではありません。**

**イエス様ご自身もこの時、怒りの感情を持たれました。しかしもちろんイエス様はその御自分の怒りの感情をコントロールして、周りに対してうまく用いて、怒りを悲しみへと変化させ、涙を流されたのでした。**

**25節26節**

**イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」**

**マルタに対しこういわれた時、まだイエス様は心に憤りを覚えてはおられませんでした。むしろ、マルタに対してこのように告げて、マルタが信じる者とされたのを、大いに喜んでおられたに違いありません。しかし、それからマリアに対しては同じようにはいかなかった、ので、イエス様はその心に憤りを覚えられたのでしょう。**

**私たちはマルタのようにイエス様の言葉をいつも信じて、この地上を歩んでいる者たちです。私たちもマルタと口をそろえて「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」と信仰告白をする者たちであります。しかし、私たちは、現実的には、マリアの様に、自分自身の喜怒哀楽の感情に飲み込まれ、イエス様の心の中を見ていないという事がよくあります。**

**イエス様は、私たちの喜怒哀楽の感情を否定されることはないけれど、私たちが自分自身の感情に飲み込まれ、イエス様をみようとしなくなることは良しとはされません。**

**この説教をつくっている最中に、何故か私は太宰治の「斜陽」という小説に目を通しました。そこには人間が喜怒哀楽の感情に飲み込まれてしまういかにも人間的な人々の群像が描かれていました。しかし、そんな小説の中にも、イエス様が登場するページがあります。**

**イエス様がこの世に来られたのは、全ての人に信じさせるためです。**

**イエス様は、色々な場面に居られます。今日のヨハネ福音書の箇所は、葬儀の場面で、多くのユダヤ人が集まる、典型的な葬儀であったのでしょう。そこにもイエス様はおられます。**

**そしてイエス様が私たちの間に居られる目的と言うのは、最初に申し上げた通り、信じさせるためという目的であります。**

**イエス様は、葬儀で、別れの悲しみの感情に飲み込まれてしまっている人々を見て、最初は憤られましたが、次に悲しまれ、人々に分かるように涙を流されました。**

**これらのイエス様の振舞いを通して、私たちは次第にイエス様を信じる者たちへと変えられていくのでしょう。**

**私たちは、ヨハネ福音書を書いた使徒ヨハネの様に、イエス様の言動にいつも心を留めて、イエス様を愛する者たちとなりますようにとお祈りします。**

**今日のエゼキエル書で描写されているように、私たちの今の骨は枯れ、滅びゆくものです。しかし、イエス様の言葉は、決して枯れることがないのです。御言葉は、こんこんと永遠に沸き出る泉に喩えられます。私たちは、ヨハネの様に、十字架の死までイエス様について行くことが出来れば、最後まで、御言葉を聞くことが出来る者とされます。「太郎、出て来なさい」「花子、出て来なさい」と言うイエス様の言葉を、自分の心の奥底で聞いて、復活の死なない体へと解き放たれるのです。その時、枯れた骨に霊が吹き込まれ、死なない命が復活します。**

**イエス様の、この葬儀における振舞いは、一見、人情を無視した、非情な振る舞いとして非難される恐れがあります。悲しみの感情に飲み込まれている人たちにとって、悲しみの感情から解き放たれることの難しさを覚えます。**

**しかし、イエス様は、最後に、私たちが御言葉を聞いて復活をし、最高の喜びの感情に飲み込まれることを望んでおられるのです。**

**「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」とイエス様は言われています。**

**私たちも、この地上にあって、イエス様と共に、この美しい御言葉を語ることが出来る場面を、これからたくさん作って参りたいと祈り願います。**

**祈り**

**父なる神よ、今、この世界全体が、悲しみに飲み込まれています。どうか私たちが愛をもって忍耐をし、希望をもって歩んでいく事が出来るようにして下さい。**

**御子イエスはどこにでもおられ、悲しみに暮れる私たちを、喜怒哀楽の感情をもって導いて下さいます。どうか私たちがへりくだって、御子イエスの思いと御心を知り、御言葉を聞くことが出来る者として下さい。**

**イエスの御心を知る私たちが、信じる喜びを、言葉と体で表していく事が出来ますように。最も良いことは、御子イエスの口から語られます。どうか最後の最後に「ラザロ、出て来なさい」という復活へのいざないの声を聞くことが出来ますよう、私たちの十字架への道を守り祝福して下さい。**